

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.108) 2018/4/24

目次

1. 第44回大会について
2. 第4回理事会報告
3. 定例研究会の案内・報告 (関東)
4. 定例研究会の案内・報告 (関西)
5. 看護・ケア研究部会報告
6. 編集後記

【依頼】 現在、学会誌の初期のバックナンバーを電子ファイル化する作業を進めておりますが、第9号のみが欠番となっております。第9号をお持ちの方は学会事務局までお知らせください。

1. 第44回大会について (田代理事)

大会の開催が間近に迫っております。皆様の参加をお待ちしております。

テーマ：ヘルス・ガバナンスの可能性—地域社会の誰もが参画する保健医療実践に向けて—

開催日：2018年5月19日(土)・20日(日)

開催地：星槎道都大学(北海道北広島市中の沢149)

大会長：細田満和子(星槎大学) <http://medsocio2018.yupia.net/>

2. 第4回理事会報告 (松繁理事)

日時：2018年3月21日(水) 11:00~14:25

会場：(株)国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：樫田会長、松繁理事、朝倉理事、田代理事、小澤理事、伊藤理事、林理事、石川理事、西村理事

事務局 平野 (記 国際文献社)

欠席者：三井理事

1) 第44回大会の準備・進捗状況について (田代)

田代理事より44回大会のスケジュール及びプログラムの報告があった。スケジュールについて2日目の全プログラムの終了が16時になることが伝えられた。ナイトセッションについては理事会企画とすることとし、費用は研究活動委員会の予算から支出することが提案され、承認された。

2) 2018年度学会運営方針の原案提示と大会時評議員会の議題について (樫田)

今後の運営方針として、学会大会においては開催校の自主性を十分に担保していく必要性に鑑み、研究活動委員会委員長からの提案のとおり、複数年企画を進めるにあたっては、理事会企画・研究活動委員会企画等を立てていくやり方で進めていくこととした。大会メインシンポジウム等の他の部分では、大会開催校の意向に十分に配慮するのがよいのではないかとということとなった。なお、次回の評議員会では、学会員を対象に実施したアンケート調査の結果等もふまえながら、学会の今後の運営について協議する。

3) 第 45 回大会開催日程・準備について (田代)

田代理事より 5 月 20 日の研究活動委員会にて詳細を詰めていくことが伝えられた。

4) 第 46 回大会について (檜田)

檜田会長より第 46 回大会の開催校候補と今後の進め方について報告があった。

5) 園田賞 (学会奨励賞) 候補について (小澤)

小澤理事より今回は該当者なしとすることが提案され、承認された。該当者なしの為、論集への掲載をしないこととし、総会時には該当者なしの為、授賞式を行わないこととした。

6) HP・Twitter の運営及び、ニューズレター108 号の編集・配信について (西村)

西村理事より HP 更新が定期的に行われていること、メールにて定例会等の案内を配信しているとの報告があった。

7) 編集委員会報告 (朝倉)

朝倉理事より 28 巻 2 号の発刊及び 29 巻 1 号の特集について報告があった。

8) 定例研究会の報告 (関東) (田代・小澤)

小澤理事より 3 月 18 日に筑波大学にて定例研究会を開催したとの報告があった。

9) 定例研究会の報告 (関西) (伊藤・林)

伊藤理事より 2 月 3 日に龍谷大学にて定例研究会を開催し、21 名の参加があったとの報告があった。詳細な報告内容はニューズレター及び HP に掲載することとした。

10) 看護・ケア研究部会報告 (朝倉)

朝倉理事より役員選挙結果について、会長：清水氏、副会長：西村氏、庶務：三井氏、会計：吉田氏になったとの報告があった。現時点の会員数は約 50 名程であり、会員が積極的に活動していることが伝えられた。

11) 渉外・国際交流活動の報告 (海外研究者招聘事業を含む) (石川)

石川理事より社会学系コンソーシアムのニューズレター原稿を提出したこと、44 回大会特別講演の講演原稿翻訳作業の予定について報告があった。

12) 社会学系コンソーシアムについて (松繁)

松繁理事よりコンソーシアムの役員体制の変更があったことが伝えられた。今後、コンソーシアムとの間の企画連携等を行っても良いのではとの意見があり、検討することとした。

13) 2017 年度決算案及び来年度予算案について (松繁)

松繁理事より添付資料次第の通り、決算案と予算案について報告があった。決算案については会費納入率が 91%であること、印刷費は論集のページ数により差額が生じてい

ること、予算案については交通費に研究活動委員会交通費と選挙開票時交通費を新たに計上したこと等が伝えられた。

14) 30周年記念アンケート・座談会、及びニューズレターアーカイブの件 (松繁)

松繁理事より前回理事会にて報告した30周年記念アンケート・座談会について、5月評議員会にて話題にすることが伝えられた。ニューズレターアーカイブについては5月の評議員会までに欠号しているものの所在を確認する予定であるとの報告があった。

15) 日本学術振興会賞受賞候補者 (学術振興会賞と育志賞) の推薦について (松繁)

松繁理事より添付資料次第の通り、学術振興会賞受賞候補者の推薦について郵便物が届いたことが伝えられ、前期理事会同様に推薦しないこととした。育志賞については園田賞受賞者が院生である場合は推薦しても良いとの意見があった。今回は園田賞受賞者がいない為、今年度の育志賞は推薦なしとして対応することとなった。

16) 論集特別号の複製許諾の申し出について (松繁)

松繁理事より論集特別号の複製許諾について外部の学術情報サービス機関より依頼があったことが伝えられた。特別号は通常の論集とは異なり、著作権譲渡を受けていないことから許諾しないこととなった。

17) 第43回大会決算について (田代, 伊藤)

田代理事より43回大会の会計監査が終了したとの報告があった。

18) 第43回大会大会長からの意見具申について (榎田・松繁)

榎田会長より添付資料次第の通り、43回大会長からの意見具申の内容や経緯について説明があった。3月に榎田会長はじめ43回大会関係者において会談が行われ、一定の合意に達したことが報告された。

19) 学会運営体制、及び大会運営体制の定期的・非定期的見直しについて (榎田)

榎田会長より学会運営に関して定期的に相見積もりを取るなど見直しに向けた取り組みを実施することが提案され、承認された。次回は2018年度末で見直すこととなった。大会業務の委託については、大会校の事情や要望が多様であることが予想されるため、大会校の意向を尊重して対応することとした。

20) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (ギース) について (松繁)

松繁理事より人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会への加盟手続きを進めているとの報告があった。

21) 入退会者の承認 (松繁)

松繁理事より新入会20名の入会承認依頼があり、承認された。また、年度末退会者32名の報告があった。

22) 次回理事会日程について (松繁)

次回は5月19日(土)10:20から星槎道都大学にて開催することが伝えられた。

以上

3. 定例研究会の案内・報告 (関東) (小澤理事・田代理事)

<2017年度第2回 関東定例研究会>

日時: 2018年3月18日(日) 14:00~16:00

場所: 筑波大学東京キャンパス 116教室

報告者: 北村弥生 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

指定発言者: 古山周太郎 (東北工業大学)

タイトル: 災害支援研究の新たなアプローチ

— 障害のある当事者と共同して進める災害準備研究の有効性と課題 —

司会進行: 小澤温 (筑波大学)

これまでの災害支援研究では、災害弱者という観点で、高齢者、障害者をとらえる見方が一般的だった。これに対して、災害準備における取組を、当事者研究の視点で、長年、関わっている北村弥生さんを迎えて研究会を行った。当日は、浦河べてるの家における障害当事者の参加型の避難準備に関する実践と所沢市における障害者の参加型の避難所運営のワークショップの2つの取り組みにおける当事者参加型リサーチの有効性と課題について報告していただいた。指定討論者は、災害支援に関して、まちづくりという視点で、東日本大震災の研究に取り組んでいる古山周太郎さんから、これまでの行政計画による防災対策の問題点を障害当事者の個別避難計画の作成の取り組みから見えてきたことを通してコメントがなされた。参加者は10名であり、看護学、社会福祉学、教育学、社会学などの観点からこれまでの防災対策研究の課題について活発な議論がなされた。

4. 定例研究会の案内・報告 (関西) (伊藤理事、林理事)

<第2回定例研究会>

日時: 2018年2月3日(土) 14:00-16:00

場所: 龍谷大学梅田キャンパス研修室

大阪府大阪市北区梅田2丁目2-2

ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー

報告者: 山中浩司先生 (大阪大学人間科学研究科)

テーマ: 病気とは何か? - 「人」「病気」「病人」 -

冒頭、山中氏は、認知症者との会話で「心が弱いから病気になった」、「私はおかしい」、「偽物と入れ替わった」という相手にどのように言葉を返したかの経験を例に、「人」と「病気」を分ける考え方、分けない考え方を紹介された。「人 person」の領域は、医療者だけでなく、本人・社会の対応があるのかわからないのかなどによって多層に広がっており、「人」と「病気」をわけない考え方は、生活と地つづきの予防医学や生活モデルと似ていること。「病」や「病人」の序列化が、医療者が対応するかどうか、あるいは本人や社会が対応するかどうかによって生じていることを、がんや未診断疾患、糖尿病などの具体例の分析から提示していただいた。

この後、およそ20名の参加者を交えて、制度化によって患者が増えることの経済的利害やア

イデンティティ、薬害エイズのように加害者がいる場合の考え方など、社会的な文脈での「病sickness」について意見交換がなされた。

5. 看護・ケア研究部会報告（朝倉理事）

1) 役員の変更について

役員任期満了に伴い、役員選挙を行いました。その結果、2018年度 - 2019年度の役員体制は、下記のように決定しました。

部会長：清水準一氏

副部会長：西村ユミ氏

会計：吉田澄恵氏

庶務：三井さよ氏

2) 2018年度総会のご案内

2018年度 看護・ケア研究部会総会を開催します。会員の方、ご入会希望の方はぜひご参加ください。

日時：2018年5月20日（日）11:30～12:30

場所：星槎道都大学（3号館3階3304教室）

議題：2017年度会計報告、2018年度活動計画案等

3) 看護・ケア研究部会に関する問い合わせ先

看護・ケア研究部会へのお問い合わせ、入会希望者のご紹介などは、庶務までご連絡ください。メールまたは郵送・FAXで入会案内をお送りいたします。例会見学も随時受け付けております。日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会 2016-2017年度役員（2018年5月20日の総会をもって、新役員体制に交代します）

会長・中村美鈴、副会長・朝倉京子、会計・松繁卓哉、庶務・白瀬由美香（事務局）

e-mail: y.shirase_at_r.hit-u.ac.jp （看護・ケア研究部会事務局：_at_は半角@に）

10. 編集後記（西村理事）

- ・ニューズレターvol.108は、主に3月の理事会で議論された内容を掲載いたしました。
- ・日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局（下記）まで御連絡ください。

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

発行：日本保健医療社会学会

編集：広報担当（西村ユミ）

学会事務局：

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

TEL：03(5389)0237